

平成 16 年のサケ科魚類種卵の移動状況と出荷形態

前号で平成 16 年の静岡県におけるサケ科魚類の生産と魚病被害の状況をお知らせしました。この調査では同時に種卵の移動状況や養成した魚がどのような形態で利用されているかも調査しましたので、今回はそれらについてお知らせします。

(1)ニジマス

ニジマス種卵の生産並びに県内及び県外への移動状況を 3 ヶ月毎にまとめて第 1 表に示しました。平成 16 年の年間生産数は 5,367.5 万粒で、15 年と比べて 544.1 万粒増加していました。生産数がもっとも多かったのは 7 ~ 9 月で、全体の 36.3%に当たる 1,950.3 万粒がこの 3 ヶ月間で生産されていました。県外

1 種卵の移動状況

第 1 表 平成16年の静岡県におけるニジマス種卵の移動状況(カッコ内は15年)

	県内 生産数	県外から の購入数	相手先	県外への 販売数	相手先	県内 保有数	県内 移動数
1 ~ 3月	616.0 (775.8)	131.0 (105.0)	北海道 長野 愛知	207.0 (212.0)	栃木 長野 山梨	540.0 (668.8)	242.0 (170.1)
4 ~ 6月	1,531.7 (1,362.7)	201.0 (140.0)	北海道 長野 愛知	431.0 (405.0)	栃木 山梨 長野 愛知	1,301.7 (1,097.7)	721.3 (606.9)
7 ~ 9月	1,950.3 (1,473.6)	40.0 (67.0)	山梨	620.0 (432.3)	栃木 長野 山梨	1,370.3 (1,108.3)	577.5 (500.8)
10 ~ 12月	1,269.5 (1,211.3)	145.0 (65.0)	長野 山梨 愛知	320.0 (278.3)	栃木 長野 山梨	1,094.5 (998.0)	300.8 (440.4)
合 計	5,367.5 (4,823.4)	517.0 (377.0)		1,578.0 (1,327.6)		4,306.5 (3,872.8)	1,841.6 (1,718.2)

第 2 表 平成16年の静岡県におけるニジマス以外のマス類種卵の移動状況

	県内 生産数	県外から の購入数	相手先	県外への 販売数	相手先	県内 保有数	県内 移動数
アマゴ	202.5 (337.5)	5.0 (6.0)	長野	0.0 (30.0)	-	207.5 (313.5)	82.9 (86.0)
イワナ	70.5 (110.0)	50.0 (85.0)	山形 宮城	5.0 (0.0)	長野	115.5 (195.0)	41.0 (111.0)
ギンザケ	65.0 (67.0)	67.0 (50.0)	北海道	0.0 (0.0)	-	132.0 (117.0)	23.5 (3.5)
ヤマメ	0.0 (60.0)	30.0 (15.0)	栃木 山梨	0.0 (0.0)	-	30.0 (75.0)	0.0 (0.0)
サクラマス	59.0 (59.0)	3.0 (3.0)	岩手	0.0 (0.0)	-	62.0 (62.0)	59.5 (59.5)
ヒメマス	0.0 (0.0)	23.0 (20.0)	北海道 青森 岩手	0.0 (0.0)	-	23.0 (20.0)	0.5 (0.0)
オショロコマ	0.0 (4.0)	0.0 (0.0)	-	0.0 (0.0)	-	0.0 (4.0)	0.0 (2.0)
合 計	397.0 (637.5)	178.0 (179.0)		5.0 (30.0)		570.0 (786.5)	207.4 (262.0)

からの購入数は 517.0 万粒で、県外への販売数は 1,578.0 万粒でしたので、県内の保有数は 4,306.5 万粒となりました。なお、県外への販売先は北海道・長野・山梨・愛知の 4 道県で、県外からの購入元は栃木・長野・山梨・愛知の 4 県でした。15 年の保有数は 3,872.8 万粒でしたので、保有数は 433.7 万粒増加していました。県内からの購入数と県内への販売数の平均値を県内の移動としましたが、その数は 1,841.6 万粒で、15 年より 123.4 万粒増加していました。

(2) その他の魚種

ニジマス以外の種卵の生産並びに県内及び県外への移動状況を第 2 表に示しました。

平成 16 年に種卵の生産や移動があった魚種はニジマスを除くと 6 魚種で、15 年の 7 魚種よりも 1 魚種減っていました(オシヨロコマ)。

生産数がかつても多かったのはアマゴで 202.5 万粒が生産され、これは 2 番目に生産が多かったイワナの 3 倍近い数でした。その他の魚種ではギンザケとサクラマスの 4 魚種で種卵の生産がありましたが、15 年に 60.0 万粒を生産したヤマメと 4.0 万粒を生産したオシヨロコマは 16 年には生産がありませんでした。ニジマス以外の魚種の種卵購入先は北海道と東北が中心で県外からの購入数は合

計 178.0 万粒で、保有数のほぼ 3 分の 1 が県外からの種卵となりました。

ニジマス以外の魚種の種卵は県外へ販売されることはほとんどありませんが、16 年にはイワナ種卵 5.0 万粒が長野県へ販売されました。

16 年のニジマス種卵県内保有数は 15 年を上回っていましたが、ニジマスを除いた場合の主要魚種といえるアマゴとイワナで保有数の減少が大きく、ニジマス以外の種卵県内保有数は 15 年とくらべて 72.4%にとどまりました。

2 養成した魚の出荷形態

平成 16 年のニジマス、アマゴ、イワナ、ギンザケの主要 4 魚種についての出荷形態を第 3 表に示しました。

(1) ニジマス

平成 16 年には 1,939 トンのニジマスが生産されましたが、それらを活魚出荷、鮮魚出荷、自家消費の 3 種に分類しますとそれぞれ、752、1,026、161 トンとなり鮮魚出荷が全体の 52.9%を占めていました。また、ニジマスの生産のほとんどは富士養鱒漁業協同組合の組合員によって行われていることから、富士養鱒漁協への集荷状況も調査しましたが、全体の 53.0%に相当する 1,027 トンが富士養鱒漁

第 3 表 平成 16 年における主要マス類の出荷形態

	活魚		鮮魚		自家消費							合計 (トン) (%)
	漁協*	独自	漁協*	独自	加工品				釣り堀	食堂	その他	
					甘露煮	干物	薫製	他				
ニジマス	46	706	981	47	43		10	6	93	1	8	1,939
	2.4	36.4	50.6	2.4	2.2		0.5	0.3	4.8	0.1	0.4	100.0
アマゴ	1	12	0	2	5	1	0	6	11	4	1	43
	2.0	27.7	0.6	4.3	10.5	1.6	0.1	14.6	25.7	10.2	2.9	100.0
イワナ	0	104	8	7	0	0	0	0	1	0		121
	0.0	86.2	6.6	5.8	0.0	0.3	0.0	0.0	1.0	0.1		100.0
ギンザケ	69	8									5	82
	83.8	9.7									6.4	100.0
合計	116	829	989	56	47	1	10	12	105	6	14	2,184
	5.3	38.0	45.3	2.5	2.2	0.0	0.5	0.5	4.8	0.3	0.7	100.0

上段:出荷量(トン) 下段:出荷量全体に占める割合(%)

*:富士養鱒漁業協同組合への出荷

協へ出荷されていまして。富士養鱒漁協へは特に鮮魚の形態での出荷が多く、全体の半数以上に相当する 981 トンを占めました。自家消費では釣り堀への利用が多く、自家消費全体の 57.7%に相当する 93 トンが釣り堀で利用されていまして。加工品では甘露煮が最も多く、43 トンでした。

(2)その他の魚種

アマゴは平成 16 年には 43 トンの生産がありました。活魚での独自出荷と釣り堀での自家消費が多く、それぞれで 12、11 トンが消費されました。この 2 つの形態が全体の 4 分の 1 ずつを占めていますが、活魚出荷も釣り堀で利用されると想像されますので、生産したアマゴのほぼ半分が釣り堀で利用されていると思われま

す。イワナは 1 2 1 トンの生産がありましたが、

その 86.2%に相当する 104 トンが独自のルートで活魚出荷されていまして。しかし、これもアマゴ同様に最終的には釣り堀で利用されるものと思われま

す。ギンザケは 82 トンの生産がありましたが、ごく一部で自家消費されているのを除き、ほとんど全てが活魚出荷されています。これらは富士養鱒漁協経由、独自ルートともに、宮城県などの海面養殖用種苗として利用されているものと思われま

す。これ以外の魚種については、ヤマメ、サクラマス、ヒメマスなどが生産されていますが、多くは委託生産的な形で活魚集荷され、最終的には釣り堀で利用されたり、放流用種苗として湖等に放流されているものと思われま

す。
(青島秀治)

マラカイトグリーンに替わる魚卵消毒剤が近日中に販売される予定です

受精卵に寄生するミズカビ対策としてこれまでマラカイトグリーン(MG)が用いられてきましたが、これに替わる水産用医薬品として承認された消毒剤が近日中に販売される予定です。この薬は商品名を「パイセス」といい、有効成分名はプロノポールという臭素系の医薬品です。4 ページの日誌にもありますが、6 月 8 日に販売元である日本ノバルティスアニマルヘルス株式会社担当の入江氏が

ニジマス種卵生産の実態調査のため来場しました。パイセスはMGと比べると価格や労力の面では負担が大きくなるようですが、きちんとした試験のもと安全性が担保された製品といえます。MGは8月1日から全面使用禁止となりますが、その前には販売が開始されるそうです。使用法などの詳細は次号でお知らせできると思いま

す。
(青島秀治)

富士養鱒場野鳥の会



昨年(2019年)の11月頃から富士養鱒場内の飼育池に渡り鳥(キンクロハジロ)が居着いています。冬期には数種類の渡り鳥がやってくるのですが、通常は春になるといなくなります。この鳥は養鱒場が気に入ったのか半年以上もここにいます。今では人に慣れて観覧客に餌をねだってよっていきようになりました。

(中村永介)

富士養鱒場の湧水と気象

月	降水量 (mm) カッコは降水日数		湧水量 (千トン/日)					
	17 年	20 年平均	17 年	20 年平均				
4 月	102(8)	209(9)	5.30	4.08				
5 月	79(12)	244(11)	3.92	4.40				
6 月	88(13)	275(12)	3.12	4.96				
月	平均気温 ()			天候 (午前 9 時、日数)				
	午前 9 時	最低	最高	快晴	晴れ	曇り	雨	霧
4 月	12.6	5.8	17.0	2	13	12	3	0
5 月	15.8	9.7	20.0	1	18	12	0	0
6 月	20.2	15.5	24.2	0	10	14	6	0

日 誌

-
- | | |
|--|--|
| <p>4 月 1 日 辞令交付(本場)</p> <p>7 日 東京海洋大・舞田助教授来場</p> <p>8 日 業務連絡会議・分場長会議(本場)</p> <p>18 日 東京海洋大・坂本助教授来場</p> <p>19 日 内水面漁業協同組合役職員・監視員研修会(天竜市)</p> <p>水産事業概要説明会(静岡市)</p> <p>20 日 水産業改良普及推進会議(本場)</p> <p>21 日 内水面漁業共同組合役職員・監視員研修会(静岡市)</p> <p>22 日 青年漁業士連絡会・漁業士役員会(県庁)</p> <p>26 日 新任管理者研修(静岡市)</p> <p>内水面漁業協同組合役職員・監視員研修会(伊豆の国市)</p> <p>27 日 神戸製鋼所・中山氏来場</p> <p>5 月 7 日 大井川源流域ヤマトイワナ調査(~9日)</p> <p>9 日 業務連絡会議・分場長会議(本場)</p> <p>12 日 岳南地域地下水利用対策協議会(富士市)</p> <p>20 日 井之頭中学校水生生物観察会</p> <p>富士宮市立富士根南中学校見学</p> <p>24 日 猪之頭公園運営協議会(富士宮市)</p> <p>27 日 第 203 回技術連絡協議会(伊豆分場)</p> <p>新任管理者研修(静岡市)</p> | <p>30 日 養殖衛生管理技術者養成研修(東京都、~6月10日)</p> <p>31 日 全国養鱒技術協議会育種・バイオテクノロジー研究会(東京都)</p> <p>6 月 3 日 業務連絡会議・分場長会議(本場)</p> <p>6 日 粉ワサビ研究打ち合わせ</p> <p>7 日 農水企画総室長来場</p> <p>8 日 日本ノバルティス・入江氏来場</p> <p>10 日 平成 18 年度研究課題総室長ヒア</p> <p>富士宮市立第二中学校見学</p> <p>13 日 県民の声担当者研修(静岡市)</p> <p>16 日 全国養鱒技術協議会魚病対策研究会(~17日、東京都)</p> <p>17 日 マイクロバブル用件(静岡市)</p> <p>20 日 東京海洋大・坂本助教授来場</p> <p>21 日 富士宮市立井之頭小学校 3 年生見学</p> <p>23 日 全国湖沼河川養殖研究会東海地域ブ</p> <p>ック会議(~24日、石川県)</p> <p>24 日 内水面組合長会議(龍山村)</p> <p>25 日 県アユ釣り大会(龍山村)</p> <p>29 日 富士養鱒漁業協同組合総会・懇談会・</p> <p>ニジマス供養祭(富士宮市)</p> |
|--|--|